

台湾・屏東大学との国際交流活動2025

～交流活動スタートから13年～

2013年5月、学術交流協定が締結されたことを契機に、同年6月、屏東教育大学（当時）視覚芸術學系の本学訪問から交流開始
美術教育講座（当時）主体に始まった屏東大学との交流は13年目



屏東大学民生キャンパス



台湾鉄道屏東駅



I, 多文化教育系 × 屏東大学 応用日本語學系 (人文社会学部)

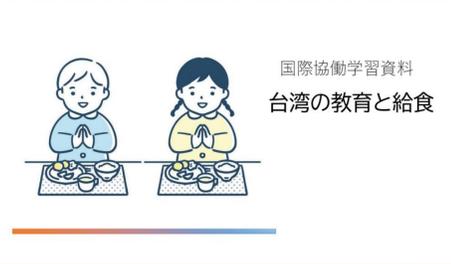
- ①学部必修授業「国際協働活動」オンライン交流
→2025年11月28日
- ②教職大学院「他地域教育実践演習」授業実践/訪問交流
→2025年10月22日

II, 表現活動教育系 × 屏東大学 視覚藝術學系 (人文社会学部)

- ①教職大学院「高度教科内容研究[芸術文化理解]」訪問交流「藝術と異文化交流・プログラム2025 in 台湾」
→2025年12月5日～12月8日
(表現活動教育系 美術教育・美術表現 合同企画)

I-①学部必修授業「国際協働活動」オンライン交流

- 2回生対象必修授業「国際協働学習」
- 屏東大学応用日本語学科の学生とのオンライン交流
- 受講生90名（国語教育部門、会科教育部門の学生）
- 日本人学生を18班に分け、1班に対し1名の台湾学生を配置
- テーマは、日本と台湾の学校教育に共通する要素の「給食」
- 台湾の学生に対し、パワーポイントによるプレゼンテーション



I-②「紋切遊びで日本文化に親しもう」授業実践 (訪問交流)

- 大学院教育研究科「他地域教育実践演習」
- 院生考案授業実践
- 教職大学院院生2名、教員2名（国語教育雄、理数情報）
- 屏東大学の日本語の授業にファシリテーターとして関与
- 双方向的な学びを志向した日本語学科への授業支援計画
- 現地の小中学校の視察も行き、院生考案授業（数学）実践



「紋切遊び」実践スライド



「紋切遊び」の紹介



「紋切遊び」授業実践



授業に参加してくれた屏東大学日本語学科学生と

II-① 訪問対面交流 ～造形表現活動活用～

- 教職大学院院生4名（教育実践力コース）
学部生3名（芸術表現コース・美術）
教員4名（表現活動教育系3、総合教育系1名）
屏東大学生サポーターは、各日約10名参加

プロジェクトパンフレット



- 屏東大学林森キャンパス六愛樓 大学美術館（黄光男美術館）にて、作品展示設営（屏東大学学生10名のサポートとの共同作業を通じた交流）



林森キャンパス屏東大学美術館

- 合同作品鑑賞（屏東大学院生個展、本学院生学生作品）



屏東大院生修了発表鑑賞



屏東大院生修了発表鑑賞



屏東大院生修了発表鑑賞

- 本学院生チームが考案した2つのワークショップ
「鑑賞カード」（網本・新納）・「駄菓子かるた」（鍛冶・武田）



作品鑑賞交流



ワークショップ「鑑賞カード」



ワークショップ「駄菓子かるた」

- 自己紹介スライド プレゼン交流



自己紹介交流

- 屏東大学学生との合同視察研修（屏東市内、原住民文化エリア）



視察ツアー研修交流



視察ツアー研修交流

- 授業見学体験（陶芸講義体験、VR講義体験）



陶芸体験交流



VR講義体験交流



VR体験

今年度の成果と今後への展望

屏東大学は、令和7年度「海外交流重点校」として選ばれた。これまで、屏東大学との交流は、複数の系・部門等でそれぞれ行われてきた。本報告では、今年度の表現活動教育系（美術・書道部門）・多文化教育系（国語教育部門）並びに大学院連合教職実践研究科の交流の概略を初めてまとめて報告した。また、教職大学院院生による事後報告座談会を企画し、お互いの活動について共有する試みも実施した。今後は、さらに、理科教育分野など、領域を超えたチームによる領域横断交流の可能性を探っていきたい。特に、美術・書道部門（美術）では、交流開始当初より、屏東大学の応用日本語学科の協力を得て、その後も折に触れお世話になってきた経緯がある。応用日本語学科との交流を展開されている多文化教育系（国語教育部門）との連携をきっかけに、学生交流（交換留学）も促進され、今後、新たな交流プログラムや、授業開発等の共同プロジェクトが期待される。